

社協だより

令和3年8月15日 (第137号)

発行者
 社会福祉法人
 高山村社会福祉協議会
 TEL 242-1220
 FAX 242-1222
 印刷所
 (株) オフセット

世代間交流 七夕飾り作り開催



7月6日(火)、子育て支援センターを利用する親子の皆さんと、更生保護女性会及びシニアクラブ(旧老人クラブ)連合会女性部の皆さんで世代間交流「七夕飾り作り」を開催しました。

今年は13組の親子の皆さんが参加し、網飾り(天の川)や吹き流しなどの飾りを、両女性会(部)の皆さんと一緒に手作りし、願い事を書いた短冊とともに笹に飾り付けました。

子どもたちは、お母さんが見守る中、真剣な表情で折り紙を切るなどの、ほほえましい光景も見られ、笹飾りはとても上手に仕上がりました。

最後は1組ずつ笹飾りを手記念撮影。大変満足そうでした。

掲載記事

社協の決算	2
小学生サバ飯作り	3
高齢者の料理教室開催	3
社協の役職員紹介	4
社協からのお知らせ他	4



社協だよりは、赤い羽根共同募金の配分金で発行されています。

令和 2 年度 社協収支決算の概要

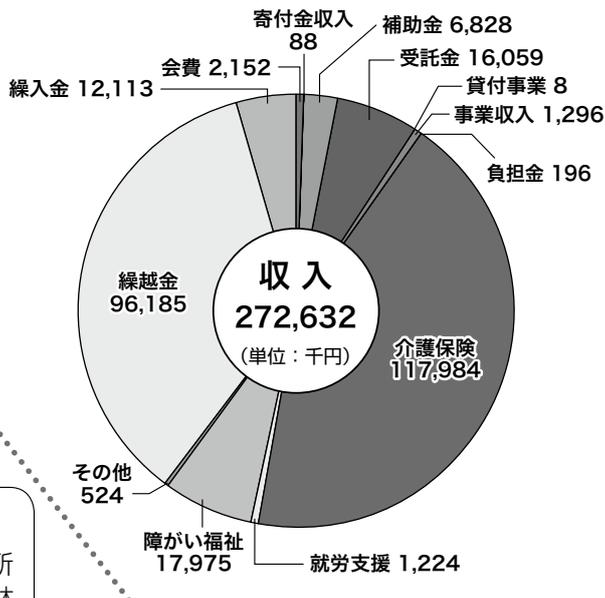
令和 3 年度第 1 回理事会及び定時評議員会を 6 月に開催し、令和 2 年度事業報告、一般会計資金収支決算が原案どおり承認されました。

令和 2 年度の収入総額は 2 億 7,263 万 2 千円で、前年度に比べて 2,213 万 2 千円の減となりました。

一方、支出総額は 1 億 8,390 万 9 千円で、前年度に比べて 1,467 万円の減となっております。

今後も「誰もが住みなれた地域で安心して暮らし続けるために」利用者の立場に立ち、満足の得られる地域福祉サービスに努めてまいります。

収入の状況



支出の状況

◆就労継続支援 B 型事業所

一般就労が困難な方を対象に、働く場を提供し、知識及び能力向上の訓練を実施しました。
・年間開所日 …………… 240 日
・利用延べ人数 …………… 2,112 人

◆フラワーセンター

B 型通所者及び共同作業所の就労訓練の場として花鉢等を栽培し販売するほか、村内の花いっぱい運動事業へ苗を供給しました。
8,496 鉢販売

◆高齢者福祉センター 管理運営事業

村内の高齢者の皆さんに交流や入浴等のため施設を利用して頂きました。
・高齢者センター
開所日 …………… 310 日
利用延べ人数 …… 8,682 人
(7 月～9 月熱中症対策により無料開放)
・松の湯荘
利用延べ人数 …… 1,883 人

◆総合事業

高齢者交流センター「松の湯荘」において、送迎により運動、レクリエーション、入浴・食事等のサービスを提供しました。
・開所日 …………… 256 日
・利用延べ人数 …………… 1,883 人

◆訪問介護事業

ホームヘルパーが利用者宅を訪問し、身体介護及び生活援助のサービスを提供しました。
・年間提供日数 …………… 365 日
・利用回数
介護保険 …………… 3,587 回
障がい自立支援 …… 470 回
軽度生活支援 …………… 63 回

◆通所介護事業

デイサービスセンターにおいて、送迎により、入浴、機能訓練、レクリエーション、食事等のサービスを提供しました。
・年間稼働日数 …………… 310 日
・利用延べ人数
介護保険 …………… 6,851 人
障がい自立支援 …… 327 人

◆法人運営事業

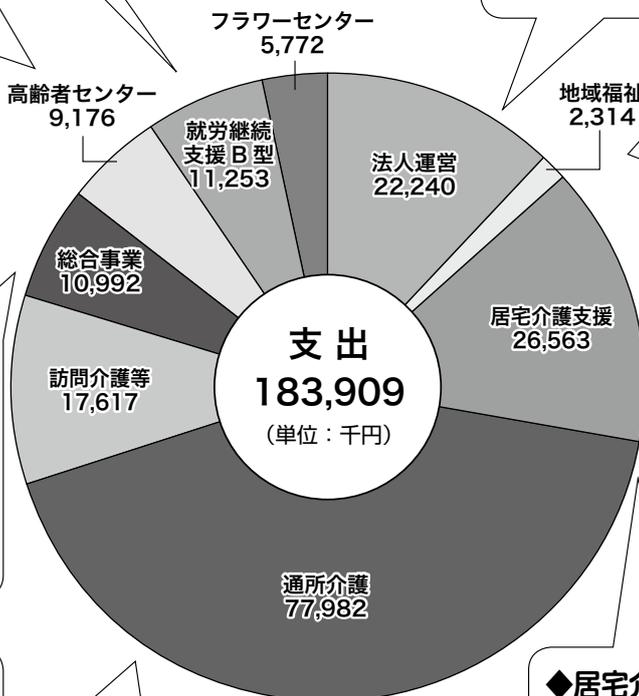
社協の適正運営及び組織体制の充実を図るとともに、職員の専門性を活かし、資質向上に努めました。

◆地域福祉推進事業

- ・ボランティア育成支援
 - ・サロン事業支援
 - ・在宅介護リフレッシュ
 - ・心身障がい者希望の旅
 - ・ひとり暮らし高齢者ふれあいの旅
 - ・ひとり親家庭交流会
 - ・金銭管理、財産保全サービス
 - ・福祉団体育成
 - ・福祉輸送サービス
 - ・結婚相談
 - ・くらしの資金、生活福祉資金貸付
- など

◆居宅介護支援事業・相談支援事業

ケアマネジャーが利用者や介護家族の状況、希望を総合調整し、適切な介護サービス計画(ケアプラン)を作成し、在宅介護を支援しました。
・ケアプラン作成件数 …………… 1,853 件
・障がいサービス計画作成件数 …… 78 件



小学校わくわく村

サバイバルご飯作り



電の火が消えないように真剣に燃料を追加する小学生。苦勞して炊いたご飯は格別



完成、おいしく炊けたかな



さあ！かまどをつくるぞ

7月17日(出)、大規模災害に直面したときにも生きのびる術を身に付けるため、小学校わくわく村では「サバイバルご飯(サバ飯)」作りを体験しました。
調理器具が無くてもご飯が炊けるよう、ビールの空き缶2個と、燃料用に牛乳パック3個を用意。上蓋を切り取った空き缶の一方に米と水を入れ、もう片方を竈とし

て使用。竈の横に開けた穴から短冊に切った燃料をテンポよく入れると、おいしくご飯が炊き上がりました。
初めて参加した松澤裕子教頭先生は、「竈の火は、手を掛けすぎると不完全燃焼し、手を抜けば消えてしまう。そんなところは子育てと似ている」と感想を述べられました。

◆ 独り暮らし高齢者の料理教室 ◆

6月7日(月)、高齢期を健康に過ごしていたため、独り暮らし高齢者の皆さんを対象に料理教室を開催しました。

食生活改善推進協議会(食改)の皆さんとシニアクラブ連合会女

性部の皆さんにもお手伝いいただき、今回は、春先に食改が村内全戸に配布した「食改さんの減塩健康レシピ」の中から、夏メニューに挑戦していただきました。



上手に出来ておいしそう



大葉を巻いた鶏つくねの照り焼き

